

〔7〕 英 語 科

辞 書 指 導 の 一 例

—多義語と熟語・連語を中心として—

加 藤 剛 高 橋 恵 亮 倉 田 有 邦
小 幡 正 躬 松 本 青 也

要旨 辞書は英語の学習に不可欠のものである。特に高校段階においては、辞書の利用の仕方の巧拙が、学習の能率化と学力向上に大きな関係を持っている。今回は、従来、ともすれば軽視されがちな辞書使用の指導を、特に、多くの生徒が困難と感じている、多義語と熟語・連語に焦点をしばって実践した。

1. はじめに

「馬には乗ってみよ、辞書は引いてみよ」という諺があるが、これは辞書をひくことの大切さをあらわしたものである。

最近、テレビ、ラジオ、テープレコーダーなどの audio-visual aids が目覚ましく発達し、海外旅行その他で native speaker と接する機会が多くなったとはいえ、馬には乗らなくなったが、英語の学習における辞書の重要性は依然として大きい。特に高校段階においては、辞書使用力の優劣が学習の能率化と学力向上に大きな関係を持っている。

しかるに、「学習指導要領」は辞書使用の指導を必ずしも重視しているとはいえないように思われる。「学習指導要領」に義理立てした訳でもないが、本校でも、高校入学当初に、授業中に辞書の紹介、推薦をする程度で、特に時間をもうけて系統的なまとまりのある辞書使用の指導はしなかった。以後は、時に応じて散発的、恣意的にある語句を授業中にひかせる程度であった。(1)

そこで辞書使用の指導の重要性にかんがみ、現状を反省して、高1における辞書の指導をとりあげた。

第 1 表

問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
× ×	15	33	27	32	15	15	42	46	9	19	24	47	15	41	24	18	24	7
× ○	35	17	19	7	34	18	7	4	10	31	9	3	14	8	26	31	6	36
○ ○	0	0	3	5	1	17	1	0	31	0	11	0	20	1	0	1	16	7
○ ×	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	0	0	4	0

2. 指導の実際

高校への新入生は、高校の英語が中学の英語とくらべて飛躍的にむつかしくなったことに圧倒される。このむつかしさの原因はいろいろ考えられるが、①新出語句が多いこと、②文法、作文が重視されること、③進度が速いことが主たる原因のようである。

彼等のほとんどが、新出語句は必ず辞書で調べる訳であるが、その際、①多義語の適訳の選択と、②語・連語とその意味の探索にもっとも困難を感じている。(2)

辞書使用の指導法は種々考えられ、またこの問題に関しては種々の論文が発表されているが、(3)われわれは、①多義語と②熟語・連語にどう対応するかの2つに焦点をしばり、他の点は必要に応じて補足的に指導を加えるにとどめた。使用する辞書も、和英・英々など加えると複雑化するので、主として英和辞典に限定することにした。尚、指導対象は前述のごとく高校1年(3クラス、134名)とした。

1. 「テスト1」とその結果の考察

まず、指導の1つの手がかりとして、多義語または熟語・連語を含む短文を和訳するテストを2学期の後半に実施した。問題は(資料2)「テスト1」に示したものである。このテストは、同一問題で連続2回実施した。第1回目は辞書の使用を許さずに実施し、答案を回収後ただちに、第2回目を辞書を使用させて実施して、その両者の結果を比較してみた。時間は、第1回目が約20分、第2回目が約40分で実施した。

辞書をひく力を見るため、問題は生徒が知っているような語句をさけた。したがって、どうしてもむつかしいものとなり、出来具合は必ずしもよくなかった。無作為抽出による50名の結果を第1表に示した。

××は第1回目第2回目ともに出来なかったもの、×○は第1回目は出来なかったが辞書をひいた第2回目は出来たものである。○○は第1回目第2回目ともに出来たもの、○×は辞書をひいたためにかえて間違えたものである。尚、採点に当っては、ポイントが正しく出来ていれば、他が多少誤っていても正解とした。

誤答傾向は次の通りであった。代表的誤答例は、各問とも、第1回目も第2回目もほとんど同じであり、両者に差異のある場合にのみその旨記した。また、各問とも誤答の中には訳してないものも勿論含まれているが、無答の多いものは、問2, 3, 10(第1回目) 16(第1回目)である。少ないのは、問1, 4, 5, 6, 8, 9, 11, 17であり、他はその中間であった。尚、第1回目と第2回目を比較すると、勿論第1回目の方が無答が多かった。

1. succeed

- ・(彼女の父のために)成功した

2. season

- ・季節の皿(料理) ・皿を洗う
- ・皿を高く積みあげる

watched her season と知覚動詞の目的補語になっていてよけいにわかりにくくなっている。

3. mean

- ・意味(する)

4. make fast

- ・降っている ・つくられる

○×が多いのが注意をひくが、やはり「降っている」と誤ったものが多い。

5. wanting

- ・欲っしている(ほしがっている)

6. right

- ・正しく(正しい)

7. book

- ・本にカバーをつけた
- ・本をいす(腰掛)にした

最も出来の悪い問の1つである。make her book と使役動詞の目的補語となっているため、「her book(彼女の本)」と誤解したものが多い。「彼女の本をいすにした」などには苦心のほどがしのばれる。

8. pay

- ・支払わない
- ・頼りにならない(第1回目のみ)

生徒には、「両親は頼りにならない(実感かも知れない!)」とか「両親は支払わない(物価高騰でどこも家計は苦しい)」などと訳しても不思議に思われないのかも知れない。

9. become

- ・あなたのものにはならない

○○が著しく多いのは習ったことがあるからと思われる。

10. scores

- ・得点(スコア)

第2回目は正解が多い。

11. over

- ・お茶について話そう(相談しよう)
- ・お茶にしよう

○×が多いのが目立つ。talk over の熟語と誤解したためである。最初に出来たのは文脈から判断して正解していたのであろう。

12. at home

- ・フランスの家にいる
- ・故郷のフランスにいる
- ・家ではフランス語である。

ほとんどの生徒が、French と France の区別にはおかまいなしである。

13. free from

- ・ミスプリントのためにただ(無料)である
- ・ミスプリントが多い

第2回目には、「ミスプリントが多い」はほとんど姿を消している。○○が多いのは文脈からの判断によるものと思われる。

14. see to it that

- ・彼が～するのを見るだろう

最も出来が悪いものの1つである。熟語と気付きにくいからであろう。

15. get the better of

- ・アンガー(人名のつもり)が私のよい所を得た(第1回目)。
- ・怒りは私をよくした(第2回目)

文頭でもあり、物主語でもあるため Anger を人名と誤解したものが多い。第2回目にはそういう例は少なくなった。

16. at once ~ and ~

- ・すぐに面白くて云々

17. There is no ~ ing

- ・～ということはない
- ・～はいうことがない

○○が多いのは、もともと知っていたものと、文脈から判断したものとの両方が含まれているようである。

18. beside oneself

- ・ひとりで喜こんだ(楽しんだ)(第1回目)

beside の項をひけばすぐ見つかるため、第2回目の出来はこの問題が一番よかった。

以上の結果から判断すれば、これはある程度常識的

にも推測出来ることであるが、生徒にとってむづかしいもの、誤りやすいものは、次のようなものである。

- ① 「多義語中の多義語」(make, means, etc.)
- ② 一見何でもない語句、すなわち、生徒がよく知っているが、生徒の知らない意味・用法が隠されている語句。(book, at home, etc.)
- ③ 文の思想内容がむづかしいもの。意味が常識的でないもの。(Parents don't pay. など。)
- ④ 構文がむづかしいもの。(They made her book the seats. など。)
- ⑤ 他に知らない語句が多くあるもの。
- ⑥ 辞書に見つけ易い形(例えばゴチック体など)でのっていないもの。

2. 教室での指導

3学期に入って「テスト1」の問題をもう一度生徒に与え、辞書をひかせて、1問ずつその意味を考えさせながら指導を進めた。その際、前述の結果をふまえて、次のような点に特に力を入れて指導した。各クラス2~3時間の授業をこの指導にあてた。

- ① 多義語については、下記のような as の例文をはじめとして、present, leave(s), light など出来る限り多くの例をあげることによって、同一の語でも context によって意味、同法が異なるから、context の中で語句の意味を考えることが如何に大切であるかを理解させることに努めた。
 - a It is not so easy as you think.
 - b He came up as I was going out.
 - c Woman as she was, she was brave.
 - d This is the same watch as I have lost.
 - e He was a foreigner, as I knew from his accent.
 - f As a boy, he used to dream about the possibility of flying.
 - g It can be used as a knife.
 - h As he is honest, everybody likes him.
 - i As the day advances, we feel the warmth of the sun growing stronger.
 - j We may enjoy the view as we pass along.

- ② 熟語・連語にはある程度型があり、辞書をひく際はその中心となる語でひかないと、その熟語・連語がのっていないか、またはのっていても見つけにくいことが多いということ。そして、どの語が中心となる語であるかについては、各型について下記以外にも出来る限り多くの例をあげて、実際に生徒にひかせた。例えば、at length は at でひくと出てくるか length でひけば出てくるかというように自分で確認させて、「中心にな

る語」に対する勘を養うことを狙った。口頭で説明しただけだと、その場では一応表面的に理解したように思われるが、身をもって体験させないと本ものにならないことが多い。

そして結局、underline した語が多くの場合中心となることを帰納的に理解させた。このことによって、彼らは熟語・連語がかなりひきやすくなったようである。

a 前置詞+名詞

- at length • in haste
- for example

b 動詞+前置詞

- succeed to • call on
- look at

c 動詞(主としてbe)+形容詞+前置詞

- get angry with • be afraid of
- be fond of

d 動詞+名詞+前置詞

- take care of • pay attention to
- take part in

e 前置詞+名詞+前置詞

- by way of • in front of
- in spite of

f 動詞+副詞

- carry out • put on
- put off

g 動詞+副詞+前置詞

- put up with • make up for
- look forward to

その他、次のような点にも注意を促した。

- ① 用例まで注意して読み、代表的な例文はノートに書き写して暗記すること。
- ② 意味や品詞の違いによってアクセントや発音の異なる語がある。
- ③ 速くひくには、ページの欄外にある案内語(guide word)を利用すると便利である。
- ④ ひこうとする語句がいくつかある場合、必ずしも文中の順序にひく必要はない。
- ⑤ 意味を予想しながら辞書をひくこと。
- ⑥ 見かけは熟語の形になっていても、熟語を形成していないで、熟語とは別の意味で使われていることがある。(Let's talk over tea. など。)
- ⑦ 場合によっては英々辞典をひく方がわかりやすいことがある。
- ⑧ 熟語の中には、1つ1つの単語の意味を知っているだけでは全然意味が理解出来ないものがある。(put up with, by George, etc.)
- ⑨ 構文にも注意を払うこと。このことは前述の

context に注意すること、品詞に注意することと大いに関係がある。

尚、今後家庭においても辞書の利用に当っては以上の諸点に特に留意して努力するよう指示した。

3. 「テスト2」の結果とその考察

以上の指導をした後、1週間後に(資料3)「テ

スト2」の問題により、「テスト1」と同様の要領でテストを実施した。「テスト1」は問題がむつかしく、数もやや多かったと思われたので、「テスト2」では問題をやや易しくし、数も15問に減したため、「テスト1」より出来はよかった。

前回と同じ50名の結果を第2表に掲げた。

第2表

問		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
正	誤															
×	×	7	9	25	23	15	10	35	37	8	13	19	10	13	22	7
×	○	38	33	21	27	34	33	15	12	13	36	31	35	37	25	41
○	○	5	8	3	0	1	7	0	0	29	1	0	5	0	3	2
○	×	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

また、誤答傾向は次のようであった。

1. look down upon

- ・見おろす

2. do away with

- ・～と一緒に行く

○○が案外あるのは context から判断したものとと思われる。

3. means

- ・手段、方法 ・意味(する)
- ・ふつう

4. subject

- ・主語 ・学科

品詞の誤解が多い。

5. miss

- ・見失なう ・間違える(人違いをする)

6. room

- ・部屋

7. offices

- ・良い会社(事務所)で職を得た

この問題は出来が悪かった。

8. smart

- ・スマートにした ・強くした
- ・なめらかにした

出来が悪かったが、構文がむつかしいのと、「スマート」という日本語に影響されたためであろう。

9. name after

- ・祖父が死んだあとで名前をつけられた
- ・祖父より後に名前をつけられた

正解者が多かったのは習っていたためであろう。

10. no less than

- ・7人以下の子ども ・7人以上の子ども
- ・子どもを7人しか

11. stand for

- ・100年間立ちつづけている

- ・～の味方をする(第2回目のみ)

12. rest

- ・休み(休息) ・休む(休息する)

13. anything but

- ・正直者にすぎない
- ・何でもないやつ(つまらぬ男)だが正直者である。

第2回目の出来が割合によいのは、他にむつかしい語句がなく、anything は勿論、but をひいても(anything but →のような形で)この熟語がのっているからである。

14. touch

- ・彼に届いた(着いた) ・彼に聞えた
- ・彼にさわった(触れた)

15. Found

- ・見つける(発見する)

2回目はほとんどが正解であった。

辞書使用の問題は、日頃生徒が身にしみて感じ悩んでおり、これから役立つ事柄だけに非常に熱心に興味をもってわれわれの指導に乗って来た。ただ熱心さのあまり少々騒々しくなりはしたが。

4. 「アンケート2」とその結果の考察

「テスト2」の実施で、この辞書指導の計画は1つの区切りになる訳であるが、その段階で生徒にアンケートを実施した。その結果は、(資料4)「アンケート2」に示した通りである。

アンケートの結果を概括してみると、ほとんどの生徒が今回の辞書指導の効果を認めており、われわれの努力もある程度報われたと思う。

中でも、「訳語を選ぶとき迷うことが少なくなった」「熟語がひきやすくなった」「例文までよく見るようになった」「文脈を注意して辞書をひくようになった」と答えている生徒が多い。指導前との比較を数量的にはつきりあわせないが、とにかく、おろそかにされがちな辞書指導面において、生徒の啓蒙、興味づ

け、意識水準の向上に、この指導がかなり役立ったものと思う。

「テストがむつかしすぎた」とか、ポイントをしぼったため「全般的な指導をしてほしかった」など、マイナス面の評価もかなり多い。しかし、時間的その他の制約から①多義語と、②熟語・連語とに焦点をしぼり、辞書も英和辞典に限定したことで、ポイントが明確になり、時間の割に指導が徹底して、かえって結果がよかったと思われる。

また、「ていねいに見るようになったので、ひくのがかえって遅くなった」というのがあるが、これはわれわれはプラスの面として考えたいと思っている。

ただ、テストやアンケートの実施に対する反対意見が相当にあることは、外によい方法がないこともあるが、安易にテストとアンケートに頼ってしまうわれわれの研究態度に対する頂門の一針であり、深く反省している次第である。

また、アンケートにある通り、辞書使用の重要性を説くに急なあまり、いささか辞書万能の錯覚を生徒にいだかせたのではないかと反省している。

3. 結 び

「テスト1」と「テスト2」の結果を比較すると、「テスト2」の方が、第2回目の出来がよくなっている。英語の学力でいえば、中以上の生徒においてこの傾向が著しい。しかし、学力の最下位のものにあってはほとんど進歩が認められない。

勿論、前述のごとく「テスト2」では「テスト1」よりも問題をやさしくしたためこの結果をそのまま受け入れることは出来ない。

しかし、前記のアンケートの結果や、指導中にわれわれが生徒から受けた印象などから判断して、不十分ながらある程度所期の目的を達し得たものと考えられる。

だが、辞書使用の能力を単なる技術でそれを指導してもらえばすぐにでも英語がわかるようになるという受けとり方をしたのものもあり、もっと深く、英語力とかかわっているものであることを理解させる配慮が欠けていたと思う。

考えてみれば、辞書使用能力というものは、ただ単語を早く見つけるというような単なる小手先の技術だけではなく、品詞、構文、意味など **Context** を考慮しながら語句をひいて、その意味用法を判断する訳であるから、いわば英語力そのものである。従って、辞書のひき方を少し指導したくらいで英語の学力が目に見えて向上するとは考えられないが、以上のような反省をしつつも、われわれのささやかな指導が、アンケートにあらわれているごとく、辞書コンプレックス、辞書の「食わずざらい」を取り除き、意識を高め、ある

萌芽を与え得たように思う。そして、彼等が今後この方向で進むならば、その効果が徐々に出て来るのではないかと、いささか甘すぎる希望をいだいている。

今回の経験と反省をもとにして、更に広範な指導計画の下に、長期的な辞書指導を続けて行くことを目論んでいる。

<註>

(1) (資料1)「アンケート1」の「5.辞書のひき方について特に指導を受けたことがありますか」に見られるように、この程度の指導を辞書指導と受け取っている生徒もあり、そうでない生徒もある。

また、中学校で辞書使用の指導を受けたことがあると答えたものが半数余りの72名いるが、A先生からとかB先生からなどと固有詞をあげて答えているものもあり、これから判断すると、この72名の大部分は名附大属中学の出身者であると推測される。

(2) これに関しては、(資料1)「アンケート1」の1及び2を参照。

(3) 辞書指導について書かれたものは種々あるが、その多くは抽象的一般論であり、机上の空論といえないまでも、現場の実情に合わないものが多い。

しかし、次の2つは、小冊子ではあるが、編集者の多くが現場の教師であるだけに具体的であり、現場の実情が考慮されており、よいものであると思われる。われわれの実践と本稿執筆に当たって益するところが多かった。

辞書の使い方と練習問題 <生徒用> 研究社
A MANUAL OF GUIDANCE IN
DICTIONARY USE KENKYUSHA

(資料1) アンケート1 (高1. 130名)

英語辞書についてのアンケート

1. 高校入学以来、英語の学習で中学時代との相違を感じるの次は次のどれですか。
 - a 新単語の数が多く、調べるのに大変である。 57名
 - b 進度が速く、ついて行くのに大変である。 20名
 - c 文法や書く力が重視されるのでむつかしい。 34名
 - d さほど困難を感じない。 5名
 - e その他(具体的に) 14名
 - ・新単語、熟語を覚えるのが大変である。
 - ・長文が多くて訳すのが困難である。
 - ・Reader, Grammar, Composition の3部門に分れているので不合理を感じる。
 - ・うまくいいあわせないが、とにかくむつかし

- い。
2. 新単語はどのようにして調べていますか。
- a 必ず辞書で調べる。 100名
- b 辞書と別の単語集（あるいはこれに準じたもの）を併用している。 28名
- c ほとんど単語集などに頼っている。 0名
- d 自分では調べないで、友人知人にたずねたり写させてもらったりしている。 2名
3. 辞書のひき方はどのようにしていますか。
- a 文脈を考えながら1語ずつ調べる。 79名
- b 新単語を書き出しておいて一気に調べる。50名
(無回答1名)
4. 辞書をひくときどのようにしていますか。
- a 発音、品詞はもちろん、例文などのある場合はそれにも注意を払っている。 29名
- b 発音、品詞には注意するが、例文までは見ていない。 74名
- c 訳語を見るだけで、他のことまでは注意しない。 25名
(無回答2名)
5. 辞書のひき方について特に指導を受けたことがありますか。
- a ある（いつ、誰から） 72名
- ・中3のとき先生から。(19名)
 - ・中学時代、先生から。(16名)
 - ・中1のとき、先生から。(9名)
 - ・中1と中3のとき、先生から。(6名)
 - ・中2のとき、先生から。(5名)
 - ・中学時代、姉から。(2名)
 - ・中学時代、塾の先生から。(2名)
 - ・高校に入って、先生から。(8名)
 - ・その他。(5名)
- b ない。 58名
6. 辞書を使用する際困ることがあれば箇条書にしない。
- ・1つの語に多くの意味がある場合、その選択に困る。 52名
 - ・熟語をどの語でひいたらよいかわからない。27名
 - ・ひくの時間に時間がかかって困る。 25名
 - ・熟語かどうか見分けるのがむづかしい。 18名
 - ・例文が少ししかのっていない。 11名
 - ・活字が小さくて見にくい。 6名
 - ・alphabetの順序を時々間違える。 3名
 - ・求める語が辞書にのっていないことがある。 2名
 - ・その他。 7名
 - ・別になし。 38名
7. 英語は得意ですか苦手ですか。
- a 得意。 5名
- b 普通。 61名
- c きらい。 34名

- d 大嫌い。 15名
- e 得意とはいえないが好きである。 13名
(無回答2名)

(資料2) TEST 1 (高1, 130名)

次の英文を日本語に訳しなさい。

1. It is a simple fact that he has succeeded to his father.
2. I watched her season dishes highly.
3. They became mean over money matters.
4. The snow is making fast.
5. He is wanting in common sense.
6. Everyone has a right to enjoy his liberty.
7. They made her book the seats.
8. Parents don't pay.
9. That new dress doesn't become you.
10. The scores of the whip showed on his back.
11. Let's talk over tea.
12. He is at home in French.
13. This book is free from misprints.
14. I will see to it that he does the job properly.
15. Anger got the better of me.
16. This book is at once interesting and instructive.
17. There is no telling what may happen.
18. Susie was beside herself with joy.

(註) テスト実施の際は underline を施さない問題を使用了が、ポイントを明示するためここでは underline を施した。

(資料3) TEST 2 (高1, 130名)

次の英文を日本語に訳しなさい。

1. You must not look down upon the poor.
2. You must try to do away with the bad habit.
3. He is living beyond his means.
4. He is subject to colds.
5. I miss him badly.
6. There is no room for doubt.
7. I got a job through the good offices of her father.
8. The cold makes the skin smart.
9. The child was named after his grand father.
10. She has no less than seven children.
11. In the Roman numerals, C stands for one hundred.
12. Take what you want and throw the rest away.
13. He is anything but an honest man.
14. The words touched him.
15. The people were trying to found a new city.

- (註) (資料2)と同様、テストの際は underline を施さない問題を使用した。ポイントを明示するため、ここでは underline を施した。
- (資料4) アンケート2 (高1, 129名)
1. ここんどの辞書指導はあなたに役立ったと思いますか。

a 大いに有益であった。	21名
b かなり役に立った。	72名
c 大して役立ったとは思われない。	18名
d どちらともいえない。	15名
e その他。	
・マイナスであった。	2名
・無記入。	1名
 2. 辞書指導を受けてよかったと思う点はどんなことですか。

a 例文までよく見るようになった。	75名
b 熟語がひきやすくなった。	67名
c 訳語を選ぶとき迷うことが少なくなった。	58名
d 文脈によく注意して辞書をひくようになった。	43名
e 品詞までよく注意するようになった。	35名
f 意味を予想してひくようになった。	26名
g 辞書をよく読むようになった。	22名
h 辞書をひくのがいやでなくなった。	14名
i 辞書をひくのが速くなった。	12名
j 知っている語も時々確かめてみるようになった。	7名
k 勉強意欲が出て来た。	4名
l その他。	5名
 3. ここんどの辞書指導の悪かった点はどんなことですか。

a テストがむつかしすぎた。	84名
b テストの時間が足らず、問題を全部やるが出来なかった。	56名
c テストをやらないでほしい。	23名
d 和英辞典についても指導してほしい。	15名
e アンケートばかりやらないでほしい。	13名
f 英々辞典の指導もしてほしい。	10名
g 辞書の使い方の全般的な指導が欠けていた。	9名
h ていねいに見るようになったので、ひくのがかえって遅くなった。	7名
i もっと早い時期にやるべきであった。	7名
j 教え方が不親切であった。	4名
k この程度の授業では大した効果はない。	1名
 4. 辞書に関してこれから指導してほしいことがあれば書きなさい。

a 和英辞典の使い方。	41名
b 速くひけるようになる指導。	33名
c 英々辞典の指導。	28名
d 辞書についての全般的なこと。	19名
e テストでやったような問題を宿題で出して欲しい。	17名
f ABCからやってほしい。	5名
g 辞書の使い方の本を紹介してほしい。	3名
h その他。	7名
 5. その他の感想があれば書きなさい。

a 家で中学生の弟に教えて得意になった。	
b 自分の力にあった辞書を使わなければいけないと思った。	
c 現在持っている辞書はよくないので別のを買おうと思っている。	
d 辞書のありがたさ(便利さ)がわかった。	
e 先生は二言目には辞書をひけといわれるが、辞書をひいてもわからないことが多いし、辞書にだって間違いはあると思う。	